

報告事項 カ

平成18・19年度「児童生徒の社会性の成長・発達に関する研究調査」
について

平成18・19年度「児童生徒の社会性の成長・発達に関する研究調査」について、
別紙のとおり報告します。

平成20年4月10日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

「児童生徒の社会性の成長・発達に関する研究調査」について

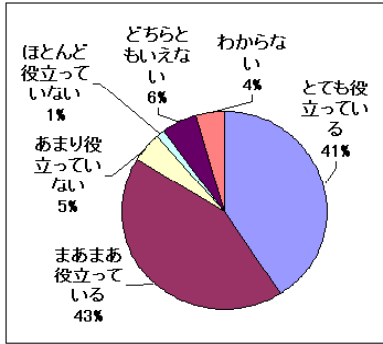
平成20年4月10日
教育センター

1 実施期間 平成18年4月～平成20年3月（2年間）

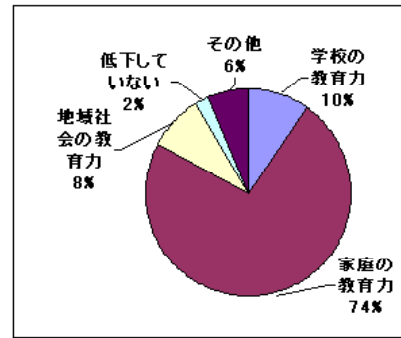
2 意識調査の実施及び結果（平成18年12月実施）

(1) 保護者の意識調査結果から（小・中・高等学校の保護者 3,241名）

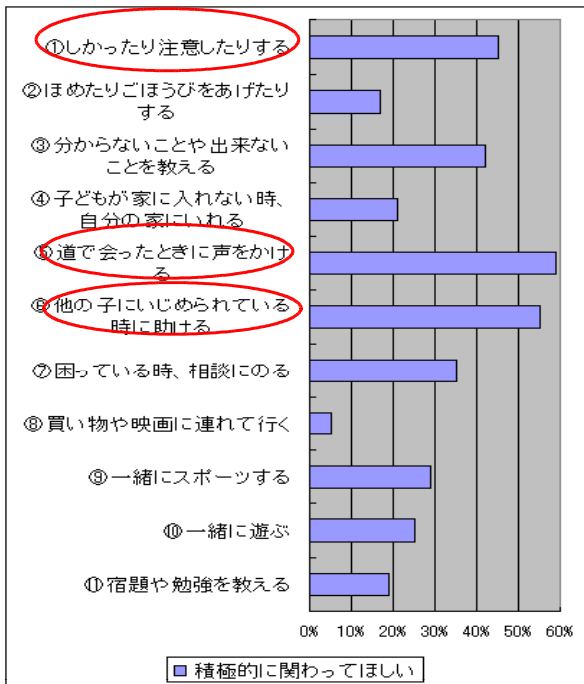
◆地域の人たちが協力し合って子育てをすることは、子どもの教育に役立っていると思いますか



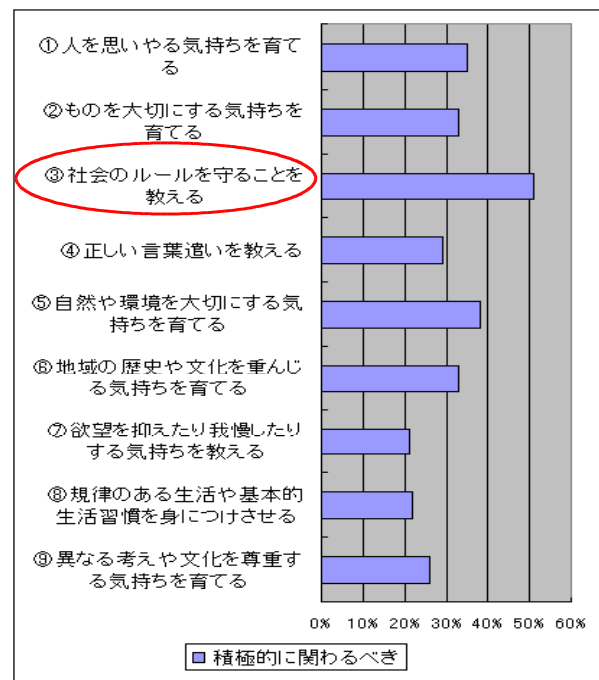
◆子どもたちの規範意識が低下したと言われますが、その原因は何にあると思いますか



◆あなたの子どもが地域の大人に次のようなことをされた場合、どのように思いますか



◆子育てにおいて地域はどのように関わるといいと思いますか



(2) 子どもの実態調査結果から（小・中・高校生 2,341名）

①実態調査の内容

・ソーシャルスキル ・生活意識 ・友だち関係 ・心理的発達 ・学級満足度

②児童生徒の実態

【地域での生活との関わりから】

- ・地域に子どもの行事の多い子は、学校生活への適応がよい。
- ・地域に子どもの行事が多いと、子どものソーシャル・スキルが育つ。
- ・地域での生活が安定している子は、学校生活への適応がよい。
- ・地域での生活が安定している子は、心理的発達（内的作業モデル）が安定的である。

【家庭での生活との関わりから】

- ・地域と家庭の関係がよいと、子どものソーシャル・スキルが育つ。
- ・家庭での生活が安定的であると、心理的発達（内的作業モデル）が安定的である。

【ソーシャル・スキルと学校生活との関連】

- ・ソーシャル・スキルが良好な子は、学校生活への適応がよい。
- ・ソーシャル・スキルが良好な子は、友人関係が良好である。

【心理的発達（内的作業モデル）と学校生活との関連】

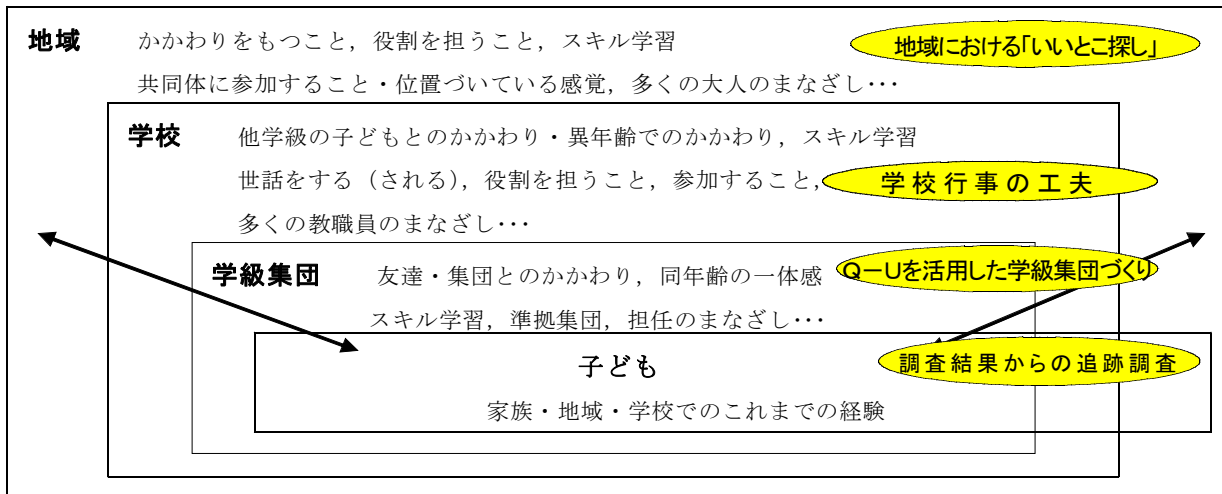
- ・内的作業モデルの安定している子は、友人関係が良好である。

【心理的発達（内的作業モデル）とソーシャル・スキル】

- ・内的作業モデルの安定している子は、ソーシャル・スキルの遂行がよい。

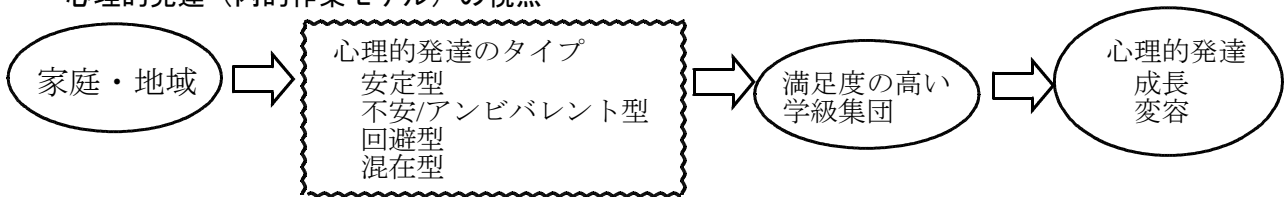
3 実践

児童生徒の発達援助のために社会にひらいた実践



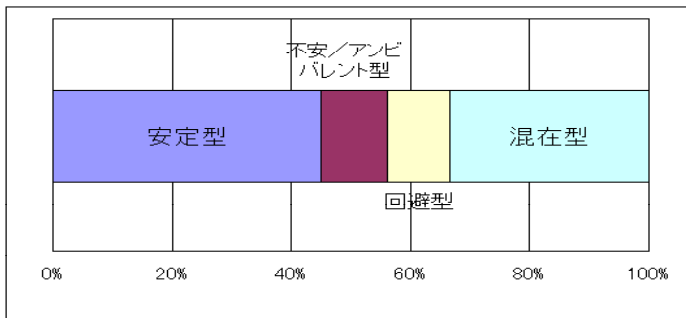
4 取組

心理的発達(内的作業モデル)の視点



実践例

心理的発達(内的作業モデル)の実態



【内的作業モデルのカテゴリー】

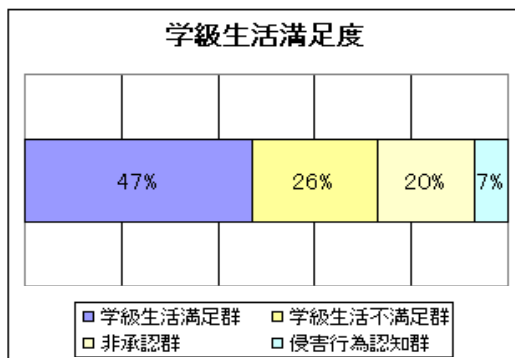
安定型: 自分は受け入れられる存在であり、他者は応答的であると認知的な枠組みをもつ。柔軟で安定的な他者とのかかわりをする傾向をもつ。

不安/アンビバレント型: 自分が受け入れられるかどうか、他者が求めに応じてくれるかどうか分からないという認知的な枠組みをもつ。他者との安定的なかかわりを求めるが、接近に不安を感じて距離をとったり、過度に求めすぎたりする行動傾向をもつ。

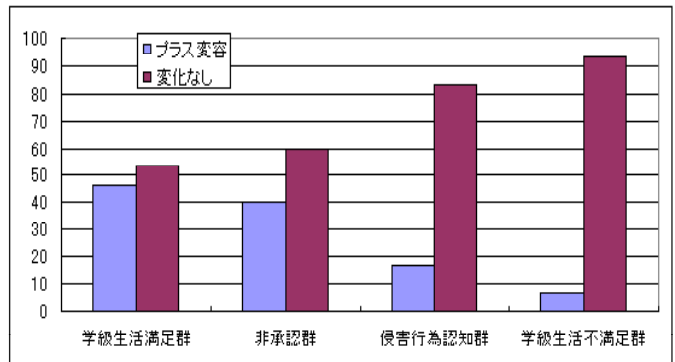
回避型: 自分は受け入れられないこともある。他者は応答的であるとは限らないという認知的な枠組みをもつ。他者とのかかわりを回避したり、他者に頼らず一人で行動しようとする傾向をもつ。

混在型: 不安/アンビバレントと回避の傾向が共に大きい。両者の行動傾向を共にもつ。

学級集団づくり



内的作業モデルの変容



学級生活満足群に属す児童生徒は、内的作業モデルがプラス変容する可能性が高い。

5 今後の取組

- 対人関係の技能(ソーシャル・スキル)の発達と、心理的発達の両面を促進する対応を意図的に行う。
- 児童生徒の認知の枠組みをプラスに変容させるために、学校は良好な学習集団を体験させる取組をする。
- 児童生徒一人一人の認知が異なることを理解し、配慮が必要な児童生徒には、それぞれの認知の特性にあった指導・援助の方針をもつ。
- 学校や公民館が連携して、地域の教育力を再認識できるような取組(行事、広報)を行う。